

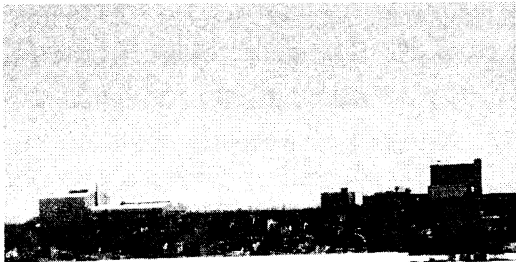
## 海外研修レポート

カナダ ローレンシャン大学から

東邦大学 秋田信也

2003年4月から9月まで、カナダ・オンタリオ州にあるLaurentian 大学に滞在し、いくつかの活動と、大学の環境に触れる機会を得ました。その時行動し感じたことを日本へレポートしていたものを、ご紹介していきます。教育研究のコーヒー・ブレイクに楽しんで頂ければ幸いです。

## 到着



## ラムジーレイクからのローレンシャン大学

カナダのオンタリオ州へ無事着きました。トロントの北400kmニッケル鉱山と湖の町サドバリーから空港へダニエルソン博士が車を走らせて迎えにきてくれました。私をピックアップして4時間半一人で運転して博士の家に着きました。

雪と氷の中、融雪のためにまいた塩をなめにムースが道路に出てきて毎年衝突事故がおこるそうです。夜は車で走らないことが重要だと話してくれました。ロードサイドの湖はまだすべて凍っています。外は昼間で-3度、寒い日の窓の外の寒暖計は-15度も当たり前ようです。

## 足の確保

まず行動は車をゲットすることから始まりました。ディーラーを2件回りました。やはり日本車は高く6万km走った1999年式のカローラが100万円です。税金は市と州税合わせて15%です。買うかレンタルにするかリースにするか結構難しい判断を

しなければなりません。レンタルだと走ったときのマイレッジで別にお金がかかり、買うとカナダを離れるとき売るためにエネルギーが必要だし、リースだとなかなかいい車が見つからないといった具合です。貧しい私の英語力では、まだ十分な交渉とはいきません。でも数日のうちにリーズナブルな車をゲットします。

## 保険が高い!(4月4日)

レンタカーで1週間か2週間車を借りたことはあるのですが、今回のように6ヶ月間車を借りるという経験はありませんでした。保険会社と車のディーラーをいったり来たりすること数回、電話やFAX、Eメールがあるのと思うのですが、こちらの人は時間があるのか仕事熱心なのかなかなか日本のようにはいきません。言葉の壁もあるのですが、今日はちょっと面白い経験をしました。保険の説明の長さ、ウエイト・アセコンドといって時々立っていく時間の長いこと、ウエイト・アンナワーじゃないかと文句も言いたくなる。喧嘩することも出来ず“がまん”。保険の割引がないのはとにかくサドバリーの免許証ではないというだけで、割増料金がかかります。なんと6ヶ月で1300ドル(1ヶ月200ドルと税金)。この内容が、カバーの上限なし、事故を起こしたとき500ドルを支払う。泥棒に会ったときのカバー、泥棒以外で窓ガラスを割ったときは300ドル支払うなどです。もちろん事故をした後レンタカーを使う場合のレンタル料もカバーしています。この説明が長い事長い事。おかげで内容が理解できました。

おまけにこの1300ドルを銀行カードで支払おうとしました。これがうまく行かない何度入力してもエラーが返って来る、会計の女性がだんだん興奮してきて文句を言い出す始末、エスコートしてくれたダニエルソン博士の知り合いの方が来てくれ、少しおさまったのだが、不満の様子。仕方がないので銀行に行って降ろしてくると保険会社を出て銀行へ。ATMで1300ドルを降ろそうとしたら、500ドルがリミットというメッセージが出て保険会社のATMが使えない訳が解りました。戻って現金で保険会社の支払いをしました。私が謝らなかつたから

か？まだ彼女の不満は収まらず、まあ大変でした。保険が解決して車のディーラーも保険会社手続きを終える間に、私の車ナンバーを取ってくれていました。社長が教授の知り合いという事で、なんと1ヶ月500ドルという安い金額で、リースしてくれました。もちろんマイレージはありません。これで何万キロ走っても大丈夫です。というわけで、なんとか1999年式カローラを手に入れました。この車をゲットするまでに2日間を要しました。

別に大学のID(図書館用)カード、研究室の鍵などは月曜日にもらえるようになりました。沢山のスタッフの紹介をされ、学生はもうすぐ今学期が終わるのですが、いくつかのクラスで自己紹介もしました。まだスタッフの名前や仕事の内容まで理解できていませんがそのうち分かると思います。そんな訳で何とか今のところ順調です。皆さん海外に出かけるときは保険について出国する前にチェックしておきましょう。ちなみに今朝は大雪です。30cmを超えて降り続いています。今日は車に乗りません。それではまたレポートします。

### 宿舎

一昨日レジデンスへ引っ越しをしました。いずれお目にかけますが、これが5万円弱で利用できるカナダの豊かさを実感しています。部屋は2部屋でベツルームと8畳程度の机とリビングが一緒になったような部屋、キッチンには、電熱器2口、お湯と水の使える流し台、2人が充分使える大きさの冷蔵庫、上と下に食器棚などがコンパクトにまとめられています。日本でなら新婚生活が出来そうな感じです。勿論シャワーとバスタブ、トイレ、洗面台などはベツルームの隣にあります。というわけで、今学生時代の事を思い出しながら、生活を楽しんでいます。

もう一つ付け加えなければならない事は、インターネット環境が素晴らしい事です。今では当たり前のことなのでしょうが、オフィスで登録をすませると、IPアドレスとつなぎ方の説明パンフレットを渡されますが、すぐにつながりました。そして何よりも外から大学のコンピュータに入ろうとすると、IDやらパスワードやら、プロキシサーバーの設定

とか必要だったものが、何の設定もしなくてデータベースへのアクセスが出来ます。これは学生が勉強するためには最高のシステムです。東邦大学の寮の環境などを考えるととても学生がかawaiiようになります。コンピュータを貸し出したりしているわけではありませんが、各自それぞれノートパソコンやらデスクトップやらを持ち込んでいます。本来ならこのスペースで2人の学生が共同生活するのが普通のようなのです。私は特別に一人で生活しています。簡易ベットを持ち込むと4人くらいは生活できます。

### 中国人の友達

私の部屋の前にこんな張り紙をしました。Shinya Akita Call me "AKI" Came from Japan. Chiba City near the Tokyo I am a senior Soccer player. Please call me playing time. Thank you for your kindness.

早速中国人のsky君が声をかけてくれました。次の日9人の友達を集めてくれて、サッカーとなりました。みんな中国語で喋るので解らないので、イングリッシュ、イングリッシュと言いながらプレーします。スポーツはもう一つの言葉と言われているけどどこでも通じるのがやはりすばらしい。2時間ほどくたくたになりましたが、この汗と後の会話が楽しい。この大学の1、2年生と今年入学試験を受けるために、早めにレジデンスへ引っ越してきた学生たちでした。

ここサドバリーには中国、香港、韓国、ブラジル、メキシコ、マレーシア、インドネシア、タイ、アフリカ、コモロ(小さな島国)、アジア諸国から沢山の学生が来ています。しかしまだ日本人には会っていません。日本に帰っているのでしょうか？この学生たちを見ていると、日本の大学生はだいたいぶだるうかと、ふと不安になります。言葉も通じない国に来て、18,19歳の青年が目を輝かせてがんばっている。そしてその多くは、夢を語るのです。卒業したら、中国に帰って会社を作るのだとか。アメリカの大学のスカラシップを取って移るのだとか、日本でおまえは何をしているのかと聞いてくれます。数時間が過ぎて行きますが、彼らの次の時代は自分の時代だと信じて勉強する姿は、カナダ人にも影響を与

えています。

こんな田舎町の大学でも、アジアやアフリカ、南米から来るのです。しかも奨学金を得る学生の多くはそういった外国からの学生なのです。外国人はカナダの若者より優秀だから仕方がない。と言っていますが、地元の高校生が特典を受けられないと言う点で、数年前からカナダ人の特別スカラシップシステムを検討しているとか。日本の大学の授業料は世界の市場では生き残れない現実をたたきつけられているような感じです。

日本語（自国語）で最高学府の教育が受けられる幸せなんて言っていられない状況が見えてきます。英語教室には広辞苑や漢和辞典のような分厚い発音の辞書と意味用の辞書を抱えて英語やフランス語で学んでいる学生たちを見る時、言いようのない日本の将来に不安を感じます。本当に多様な価値観の中で、何を求めて学ぶのか、目標を立てられた時代は良かったけれどこれからの世界は経済だけで動いていくのだろうか？

SARSで大騒ぎをしたトロントからは今度は西ナイルウイルスのモスキートのニュースがラジオから連日流れてきます。去年はモスキートの発生は少なかったのだが、西ナイルウイルスのモスキートは徐々にトロントから北へも進出すると言った話題で大変です。電話相談のような番組でも、声を張り上げてニュースの提供を呼びかけています。学生が居なくなり、レジデンスも研究室も、ものすごく静かになりました。先生たちもマーキングから解放され、昼休みになると食堂に集まってきます。それまで学生であふれていた食堂も今は1時間あまりゆっくりと食事を囲んでおしゃべりを楽しています。少し休養をして、入学試験と自分の研究に打ち込む日が来るのでしょうか？

### サドバリー報告7

皆さんお元気ですか？ 大学の厳しい状況を、連絡頂いて、改めてカナダから考える事の多さに困惑したり、本当に日本の大学は教育ビジネスとして生き残れるのだろうかなどと、つい不安になったりしています。学部長の声も聞こえてくるようです。

今日は5月19日（月曜日）ビクトリアデーと言

う事で祝日です。もう私の滞在期間の4分の1が過ぎ研究の真最中と、言いたいところですが、日に日に変わりゆく季節と、いままで氷の中に閉じこめられていた反動でしょうか、研究室には数人の先生たちしか残っていません。

共同研究の先生も家の回りの仕事が忙しく先週はほとんど大学には出てきませんでした。私の方は、英語教室、研究室、図書館を行ったり来たりしながら、時間が過ぎて行きます。その間建物を移動するため、外に出て自然の移り変わりを楽しています。

今週から大学が開催する少年から大人までの、サッカー&バスケット・キャンプというのが始まります。「両親が働いているので、ベビーシッタープログラムだ」と批判する先生も居ますが、とにかく私は初めての事なので、手伝う事にしました。

それにしても芽吹き速さには驚くばかりです。ポプラ系の木だと思のですが、朝はまだ小さな芽だった物が、夕方にはすっかり葉になっています。まだ白樺の木は芽吹いていませんが、芽吹き始めると数日で緑に変わると思います。1ヶ月前まで氷の世界だったなんて、想像する事すら出来ない状況です。湖にもボートやカヌーが動き始めました。昨日は日曜日なので、車で1時間ほどのオナビンフェールという滝と森のトレイルを歩いてきました。とても気持ちの良いハイキングになりました。

大学の紹介をと数人の方からメールをいただきましたので、大学のHPアドレスをいれておきます (<http://www.laurentian.ca/>)。とにかく元気です。ご安心ください。中国人の学生たちとするサッカーや、たまにテニスもやっています。まだ日本人には会っていません。

### 寿司を食べたい

レストランや大学のレストランいろいろとおいしそうな所を探して行ってみるのですが、何とも私の口にあう物にはなかなか出会えません。仕方なく自分で作って食べたりしています。中国人と韓国人の学生達は私の焼くピザとパンがとても旨いといつもほめてくれます。

ジャパニーズレストランと看板を掲げたレストラ

ンに行ってみました。確かに寿司なのですが、とても日本の江戸前寿司とはいきません。日本でもまあまあ値段の物を頼んで、出てきたのはテイクアウトの寿司のように、ネタもしゃりも小さく、とても大食のカナダ人は来ないだろうと思いましたが、それが結構お客が居るのです。ウエイトレスに、誰か日本語を話す人はいるかと聞いてみたら、みんな韓国人の人だそうで、日本語を話す人は居ないとのことで、これは寿司じゃないよと言いたいところですが、あきらめました。



カヌー1号艇完成

### カヤック2号艇

ロッカビーハイスクールで週2回イブニングに2時間カヌー作りのワークショップをたのまれて、日本から持って行ったカヤックの設計図を使ってやっていますが、これがもうすぐできあがります。早く湖に浮かべてみたいと思っています。

大学生が夏休みのため、ロッカビー・ハイスクールでのカヌー・ビルディング・ワークショップをやっていましたが、終わりました。今高校は学期末試験のため進水式は試験が終了してからになります。毎週火曜と木曜日2時間のワークショップでしたが、何とか楽しく出来ました。日によって来たり来なかったりの生徒たち相手でしたが、全員で10人ほどが参加しました。興味のある生徒はずっと来ていましたが、なかなか生徒達も忙しいらしく、高校の先生マイク・コールさんともう一人の生徒と私で作ったようなものでした。

それにしてもロッカビー・ハイスクールの施設は、

技術科があり、木工室、車の整備施設、コンピュータの施設などが整っている事に驚きました。すばらしい木工用機器が整っているので全行程10日で完成でした。この先生もこれなら生徒の授業で出来ると喜んでいました。この艇はロッカビー・ハイスクールへ寄贈です。完成艇を見たダニエルソン博士も欲しそうなので、私が乗ることも含めてもう1艇作る事になりそうです。今度は教授のガレージで7月に作ります。大方の工具はカナディアンタイアーというDIYセンターのようなところでチェックしてあります。

### 高齢者の運動調査

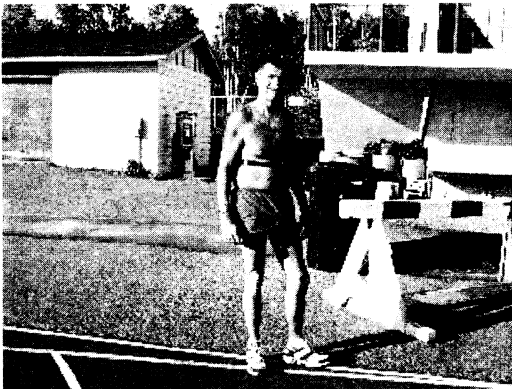
研究の方も測定が始まりました。健康な年配の方の普段の運動をハートレイトの変化を記録していますが、歩いたり、走ったりする運動について行けなかったり、苦勞しています。ノイズが多く2日、別の日に運動してもらったりしています。まだ2名ですが、一人は8kmのウォーキング、もう一人は12kmのランニングでした。このランニングの方は元カナダのロング・ディスタンスの代表選手だったとか、最初の2kmについて行くのがやっとでした。

後は“ゴーアヘッド”見え隠れする彼を追いかけ一人知らない道を見えなくなると見当を付けて走って居ました。4kmと少し走ったところで、彼は6km地点で折り返してきました。またこのコースが高低差20~30mをアップダウンするコースで自然にインターバルトレーニングになっているような状態でした。これが普段の運動だと言うから驚きです。この二人の方は1週間に6日このような運動をするのだというのに、驚嘆させられていると言うところです。そこから私も折り返して、勿論一人でとぼとぼと元来た道を走ったり歩いたりしながら、被験者がゴールして5分遅れで帰ってきました。

その日はデーターの分析もせず、レジデンスへ帰ってバスタブにお湯を張ってゆっくりと日本の風呂スタイルで足のマッサージをしました。おかげで次の日はだめでしたが、2日後には、また動けるようになりましたのでご安心を。

カナダも日本に似て高齢化が進んでいます。ただ移民を受け入れている国なので、多くの自由を求め

る人たちが入ってくるので、人口の構成比率は日本より高齢化の進捗は遅いようです。しかし徐々に深刻化する高齢社会を考えてか、健康で長生きするために、多くの人がそれぞれに、ウォーキングやジョギングをしています。中でも年配の方がさっそうと歩いているのを見ると、やはりかっこいいと思います。



ハートレートモニターをつけての測定風景

### サッカーチーム

大学の入り口にあるラムジーレイクの湖畔にウォークスルーを4~5 km作ってありますが、ここは朝と言わず昼も、夜も多くの市民が歩いています。

別に私の参加できるサッカーチームも2チーム、ゲットしました。私が持ってきたゲーム用のビブス(番号の入ったチーム分けするゼッケン)が気に入ったのか、別れる時には来週は来るか、何時からどこで始まるからとしつこいくらい教えてくれます。きっと私の英語がめちゃくちゃなのか、分かっていないのではないかと思ったのでしょうか。私は約束をしてその時間に行かなかった事はないのですがね。まあそんな訳で元気で研究とサッカーと英語の勉強しています。カヌー1号艇(この入力をするといつても豪邸になる。ワープロって馬鹿ですね)。

そろそろ前期の試験のシーズンですね。久しぶりにレポートします。私も結構忙しい日々を送っております。測定、DATAの整理、被験者へのフィードバック、測定地の距離計測など、ウィークデーは頑張っています。週末やイブニングに歴史あるラムジー

レイクのカヌークラブに入り、2日に1回くらいの割合でカヌーも楽しんでいます。とにかく風の無い日は、ミズスマシのように、音もなく、自分でこいだカヌーの波が何処までも消えないで残っている湖面はまた格別なものがあります。

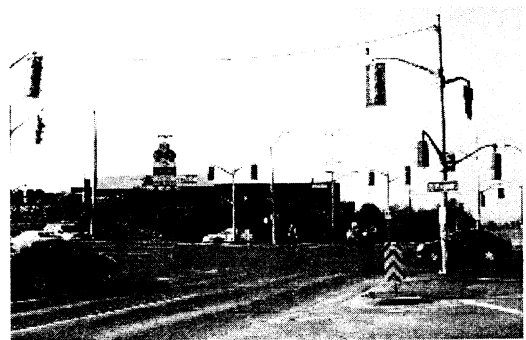
カナダグースがヒナを連れて、数十羽渡っていくのに出くわしたりする事もあります。そんなときは20mくらい離れたところで、カヌーを止めてみえています。何とも静かで平和です。

### 北米最大の停電

いよいよ残すところ1ヶ月あまりとなりました。しかし今年のカナダはよくいろいろな事が起きる年です。SARS、西ナイルウイルス、狂牛病、西の方では山火事、そして東の停電と・・・。

8月14日の午後4時頃、部屋の電気が消えました。当然このレジデンスの停電だと思い、仕事をしていました。ところが夕食の準備の時間になっても電気が帰ってきません。オフィスに行ってみて初めて大学全体が停電だと知りました。ラジオもテレビも使えないため、情報がありません。

オフィスに集まってきた旅行者や滞在者が電話をいろいろかけて、どうもサドバリー全体が停電らしいと言う事が解りました。携帯電話もすぐ使えなくなりました。カーラジオならと車のラジオを聞いてみるのですが、今停電していると言うだけで音楽になってしまいます。街に出てみましたが、本来なら木曜日の夕方のスーパーは人でごった返しているはずなのに、スーパーもガソリンスタンドも、レストランもみんなクローズになっています。



停電の交差点で交通整理をするポリス

仕方ないので、部屋に戻って食事と寝る準備をして、16日の朝には部屋を開けなければならないので、パッキングを始め暗くなってきたので、あきらめて9時過ぎにはベットに入りました。闇の世界かという幸いにも月光でほのかに明るく、街には車のライトと工事中の充電式方向指示器の明かりや、自家発電の街灯が所々に見えました。全体的には静かで異様な世界でしたが、何事もなく夜は更けてゆきました。17日の朝になっても電気は回復していませんでした。車のラジオでニューヨーク、デトロイト、シカゴ、トロント、オンタリオ全体が停電だと解りました。なぜそんなに広い地域が一度に電気が止まってしまうのか、とても不思議です。日本の数倍も広い地域が1系統でコントロールされているなんて信じられない社会です。

17日午前中信号機のある交差点には、汗だくになって若いポリスが交通整理をしていましたが、ある信号機の交差点では女性のポリスが一人で、パトカーのボンネットに何本も飲み物を置いて、必死で交通整理をしていました。勿論全ての街の機能はストップです。レジデンスでは、この停電は長引きそうなので、宿泊者にこの後どうするかを聞いて回っていました。私は出来る限り長くここに居る事にして、カナダ横断の最初の旅行の出発を遅らせる事にしました。しかし冷蔵庫の氷が溶けてフロアに流れ出してくるし、鶏肉やらハムやら水浸しで少し臭いが出てきてこれらもガーベージへとという始末です。まあなかなか上手くはゆかないものです。

11時頃電気が戻ってきました。しかしインターネットや、銀行、スーパーなど街機能は止まったままです。ガソリンスタンドには長い列が出来ていました。私は夜になって列がなくなってからガソリンを満タンにしました。このころになって幾つかのスーパーがオープンしたとラジオは伝えていました。午後3時頃になってもインターネットが回復しないので、お世話になっている教授の家に出かけて、インターネットを使わせてもらいました。そこで北米最大の停電だと知りました。レジデンスのインターネット環境が戻ってきたのは、停電から丸1日経っ

ていました。

まあそんな訳で、いろいろと面白い事や、混乱する事が続きましたが、この大学のレジデンスも来期の新生がオンタリオ州の制度の変更で高校3年生と4年生だった学生が一度に入学してくるため、修理や改造やら清掃のため、私も出なければなりません。どうせ宿無しなら、仕事も一段落したところだし、カナダとアメリカを横断してみることにしました。

CAA(AAA)日本のJFAのようなロードサービスの会員にもなりました。月曜日朝からまず東のプリンスエドワード島へ向かって出発します。幸運を祈っててください、インターネットが使えるところから、都度報告します。

この後のカナダ横断、アメリカ横断の旅はまたの機会にでもご紹介できればと思います。関心のある方は、ご連絡下さい。

#### サドバリーのサッカー仲間



何度も元気をもらったナイアガラの滝

